

阪神大震災における土木工学科学生のボランティア派遣について*

Volunteer Activities by civil engineer course student in Hanshin Disaster

北川博巳**, 三星昭宏**, 江藤剛治**, 竹原幸生****

By Hiroshi KITAGAWA, Akihiro MIHOSHI, Takeharu Etho, Kousei TAKEHARA

The needs of volunteer is increased in Hanshin Disaster. Many of volunteers was visited at disaster-stricken area and they were active in many fields.

Large quantities of manpower and volunteer is needed in this disaster, so about 200 volunteers is detached which belong to Kinki University.

In this study, it is united the contents of this volunteer activities and activity records. And it is considered about needs of volunteer in civil engineer field.

Keywords: volunteer activity, support activity

1. はじめに

先の阪神大震災においては、神戸を中心とする阪神間に多大な被害があった。初期における救助活動とともに、あらゆる箇所において、ボランティアに対する需要が急増していた。被災地には多数のボランティアが訪れ、様々な分野で活躍し、日本におけるボランティア元年と言われるきっかけとなった。しかしながら、避難所での暮らしは長期化するとともに、避難活動を継続させる上では多量のマンパワーが必要であることも問題として残った。また、このように大量な人員を確保するため、先の阪神大震災において、文部省はその

年の2月初旬に、各大学に対して、学生のボランティア活動に対して単位を認定するように要請している。

また、集合したボランティアを適正に配置し、効率的に被災者の援助に生かしているのかについても問題が残った。震災以前に防災ボランティアの必要性について、概念と具体的事例をまとめた研究²⁾やその組織化の条件についての研究³⁾があった。緊急災害時のような大量な人員を確保する上では、災害ボランティアの持つ意味は大きいため、今後も防災ボランティアの必要性や組織の作り方が議論されてくると思われる。

震災による緊急性と大量のマンパワーを必要とするボランティアの需要増加とを鑑み、近畿大学理工学部土木工学科の社会奉仕実習科目を前倒しで実施した。本稿では、することによって、学生がボランティア活動をした記録について述べ、災害ボランティアに関する1つの事例という意味で、これら支援活動に関する記録とどのようなボラン

*キーワード: ボランティア, 支援活動

**正員 工修 近畿大学助手 理工学部 土木工学科
(〒577 東大阪市小若江 3-4-1 TEL06-721-2332, FAX06-721-1320)

***正員 工博 近畿大学教授 理工学部 土木工学科

****正員 博(工) 近畿大学講師 理工学部 土木工学科

ティア活動がなされたかについて報告するものである。

2. 近畿大学理工学部土木工学科でのボランティア派遣の概要

今回、前倒しとして実施した社会奉仕実習科目は表-1 に示すような内容で実施している。活動時間は、夜間・休日を利用する場合で、合計 20 時間以上、夏期休暇等を利用するような場合で、40 時間以上を単位認定の最低限とした。また、学生には表-2 に示すような社会奉仕手帳を配布して指導をしている。震災の次年度から開講する予定であった社会奉仕実習を前倒しにして、阪神大震災に派遣することに関しては、学科会議で何度も議論することで決定した。震災後 1 ヶ月経過した後の平成 7 年 2 月 16 日の学科会議で、4 月から開講する予定の「社会奉仕実習」と「建設実務実習」を前倒しにして 2 月の終わりから開講し、阪神大震災にボランティアを派遣することを決定した。学年末試験最終日の 2 月 23 日には「社会奉仕実習」、「建設実務実習」をとってボランティアを募った 1 年生と旧カリキュラムの 2,3 年生に対して、単位とは関係なくボランティアの呼びかけをしたところ、合計で 377 人の学生が参加を希望した。これは土木工学科の学生の約 75%にあたる。単位と関係のない 2,3 年生の方がむしろ応募率の高かったことが特徴的であった。また、これ以前に阪神大震災でボランティア活動してきた学生は 16 名と非常に少なく、ボランティア活動に対するコーディネータは非常に重要なものであることがわかった。

社会奉仕実習科目の一環ということで、表-1 に示すような活動時間と活動日数の方針で行った。

つぎに、活動の方針としては表-3 に示すように居住地ごとにグルーピングし、兵庫県・大阪北部グループは三宮周辺や兵庫県、神戸市内での活動、大阪中部・南部グループ、他府県グループは西宮

表-1 社会奉仕実習の概要

対象：土木工学科計画・環境コースの学生 (なるべく全員が参加するように指導)
内容：オリエンテーションとして講義を 4 回実施 ボランティア活動 (休日・夜間利用→20 時間以上、夏期・冬期休暇利用→40 時間以上) 社会奉仕実習発表会
指導：教授 4 名、助手 3 名 教員 1 人あたり 4~5 名の担任制
単位：選択科目 2 単位 成績は可否で評価する

表-2 社会奉仕実習手帳の概要

1.社会奉仕実習の概要 (1)目的 (2)科目の設定 (3)単位認定までの課程
2.ボランティア活動とは
3.社会奉仕実習活動計画書 (1)活動計画のたてかた (2)記入の仕方 (3)社会奉仕実習活動計画書用紙
4.活動中の諸注意 (1)活動中のマナー (2)ボランティア保険 (3)事故発生時の対処の方法
5.社会奉仕実習報告書 (1)記入の仕方 (2)社会奉仕実習報告書用紙
6.社会奉仕実習発表会 (1)発表の仕方 (2)発表概要の書き方見本
7.詞 「ボランティア拒否宣言」

市、川西市、豊中市等を活動先として分割した。実際の活動内容としては、以下に挙げる活動先を提示し、なるべく本人の希望箇所とした。

- ① 一般的ボランティアとしての避難所の炊き出しに代表される手伝い
- ② 兵庫県・神戸市・西宮市・豊中市等の自治体
- ③ コンサルタント
- ④ 学会

表-3 説明会参加者とボランティア活動希望調査結果

	1年生	2年生	3年生
在籍者数	149	180	165
説明会出席者数	138	144	160
①参加する	35	13	57
②参加したい（日程調整が必要）	83	107	82
(小計)	118	120	139
③阪神大震災ボランティア活動を既にした	1	5	10
④参加しない	13	19	12
その他	63	0	0

表-4 ボランティア活動希望先と配置

	兵庫県 大阪北部 グループ		大阪 中部・南部 グループ		他府県 グループ		合計		豊 中市 既出	西 宮市 既出	総計	
	建設ボ ランティア	一般ボ ランティア	建設ボ ランティア	一般ボ ランティア	建設ボ ランティア	一般ボ ランティア	建設ボ ランティア	一般ボ ランティア			建設ボ ランティア	建設ボ ランティア
3月第1週	25		14	3	8	3	47	6	14	27	88	6
3月第2週	14		17	6	3	1	34	7	11		45	7
3月第3週	11		13	1	4	2	28	3			28	3
3月第4.5週	16		20	7	10	3	46	10			46	10
4月以降	1		2				3				3	
3月頻繁			10				10				10	
ばらばら	12		29	14	9	1	50	15			50	15
計	79		105	31	34	10	218	41			270	41

⑤民間企業

の合計 15カ所の活動先が決定した。

また、活動日数が 2,3 日の学生については本人とおよび相手先と協議し、場合によっては自治体等で実施している一般的なボランティアとして活動

させた。今回の特徴としては、避難所の世話などに見られる一般的なボランティア活動のみならず、土木工学科の学生という意味で、各種自治体、コンサルタント、学会等の活動に参加させていることが特徴として挙げられる。その他いくつかの自

治体についても連絡は取ったものの、土木的なボランティアについてはどのように扱えばよいか分からないという回答を得た場合もあり、今回の震災についてはこのような観点からの準備はできていなかったことも特徴として挙げられる。活動に際しては、単独で行動・活動するよりもグループ単位での活動が望ましいとし、5人一組のグループを組織した。また、各グループにリーダーを選び、連絡事項等はリーダーを中心として活動をした。

被災地での活動ということもあり、学生への支給品として、マスク・軍手・野帳・カメラ・社会奉仕実習手帳・場合によってはヘルメット等の支給品を与え、大学と交渉して、学生保険とボランティア協会を通じてのボランティア保険の2種類に加入を義務づけた上で派遣した。また、活動前には表-2にある社会奉仕活動計画書の提出を依頼した。

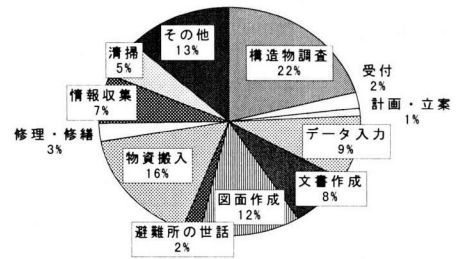


図-1 ボランティア活動の作業内容

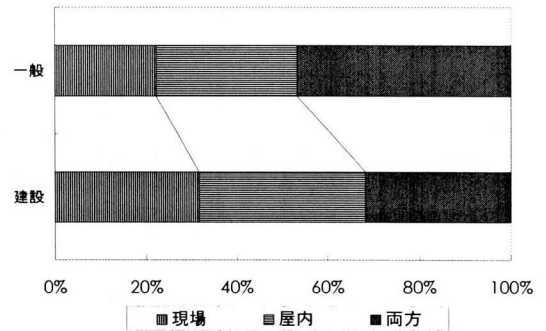


図-2 ボランティア活動をした場所

3.避難地でのボランティア活動の内容

活動時間としては、当初決定していた夏期休暇等を使用する場合に該当するというので、一日で8時間程度、日数として5日の活動を最低限の数字とした。結果として、平均的な活動時間と日数は、一日5~8時間で5~10日の活動となった。今回は400人近くの大規模なボランティア派遣であり、その事務負担を考慮して、期間中にボランティア事務局を設置し、そこで連絡や活動の調整も学生自身で行わせた。

各学生の活動してきた内容についてまとめたものを表-4に示す。ただし、この時参加した全学生に対しては報告書の提出等を義務づけなかったため、実習該当学年の学生の報告書を参考に作成している。

今回の派遣では役所・企業等を通じて土木工学に関するやや特殊なボランティア活動と避難所での世話や救援物資の仕訳などに見られる一般的な奉仕活動との2つに大別された。今回の派遣活動の内容としては、おもに道路、建築物、水道管、基準点等の調査をしている。さらに、被害状況の図面作成や倒壊家屋リストの作成などが活動の主だった点である。また、今回は調査活動が多かった点では他人とのコミュニケーションがあまりとれない活動も多かった。今回の活動内容の構成を図-1に、また、現場での活動人数と屋内作業の人数構成を図-2に示す。今回のボランティア派遣で多い作業内容は調査・図面作成・物資搬入であった。また活動場所としては、一般的なボランティアと比較すると、建設的ボランティアはどちらかといえば現場での活動が主となっている。土木的なボランティアの特徴としては、図面作成やデータ

表-5 ボランティア活動先と活動内容

派遣先		活動内容
建設実務的ボランティア	神戸市灘区役所	道路被害調査
	神戸市兵庫区役所	倒壊建築物の写真撮影
	神戸市東灘区役所	被災家屋のリスト作成, 家屋解体撤去相談所での案内
	豊中市役所	基準点の破損調査, 橋梁の破損調査
	箕面市役所	建造物の倒壊調査
	西宮市役所	被災状況地図の作製, 倒壊家屋リストの作成, 住宅の応急修理受付 用水路・道路の被害調査, 測量補助, 水道管破損状況調査 水道補修工事のファイル整理
	東亜道路㈱	CA モルタルの混合, 資材積み卸し, 型枠づくり
	学会	神戸市灘区内の道路被害調査, 神戸市兵庫区内の道路被害調査
奉仕活動的ボランティア	尼崎市	被災者への食料・衣服の分配 建造物の全壊・半壊通知の宛名書き, 屋根のふき替え作業 食料等の救援物資の整理, 毛布・布団等の救援物資の配達 負傷者リストの作成, 病院への負傷者の確認 援助金配分者のリストアップ, 援助金などの領収書の整理 物資の保管・整理・在庫調査, 避難所での世話
	西宮市	救援物資の仕分け・運搬・配給 バザー開催の手伝い, ボランティア事務所移設
	神戸市中央区	修理・修繕, 清掃
近畿大学ボランティア事務局	近畿大学理工学部土木工学科から派遣する約 300 名のための日々変化 する受け入れ先との連絡調整, ボランティア学生への連絡と引継事項 の確認	

入力および道路や建築物の調査が多かった。とくに、現地調査員の確保という点では今回の活動では参加者が一番多いものとなった。

4. おわりに

阪神大震災という未曾有の震災に対して、災害ボランティアの派遣という形で近畿大学理工学部土木工学科の社会奉仕実習を前倒して実施し、学生をボランティアに派遣した。ボランティア活動は土木関係の部署におけるボランティアと避難所や物資支給などの一般的なボランティア活動の 2 種類が行われた。本稿ではその時の記録を記述し、阪神大震災においては、どのような場所でどのようなボランティア活動が実施されかについて報告した。今回の派遣結果をまとめると以下ようになる。

- ①震災 1 ヶ月が経過した後ではあるが、今回このようにボランティア派遣ができた理由としては、当初から社会奉仕実習としてボランティア活動をする準備が整っていたことが理由であると考えられる。しかし、被災地での活動という点から、活動開始時期については若干の遅れがあった。
- ②ボランティアに参加希望をした学生は 300 名程度いたが、事前に震災ボランティア活動をしていたものは非常に少なかった。また、ボランティア事務局を設置して学生に現地での調整や引継作業をさせた。ボランティア活動については、このようなコーディネートをする事によって参加者が増え、活動も円滑に行われるものと思われる。
- ③今回のボランティア活動は建造物の調査、図面作成、物資の搬入をしてきた学生が多かった。

これらの活動については受け入れ先が調整していた。

- ④学生にとっては今回のボランティア派遣が土木工学を知る意味でも、社会奉仕の概念を理解する上でも良いものとなった。
- ⑤災害時におけるボランティア活動を円滑にかつ迅速にするためには平素からの準備や訓練が必要であると同時にボランティアを派遣するコーディネーターの存在が重要であると思われる。

ボランティアの種類も時系列的に変化し、マンパワーを必要とするボランティアから専門的なボランティアの必要性が生じてくるものと思われる。今後、ボランティアの組織化を考察してゆく上では、今後、ボランティアのニーズを把握・整理し、組織化にはどのような注意点があるのかについての考察が必要である。

<参考文献>

- 1)朝日新聞：1995.2.10
- 2)室崎，大西，井谷，多田：防災ボランティアに関する研究（その1）概念と具体的活動事例，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp287-288.1988.
- 3)室崎，大西，井谷，多田：防災ボランティアに関する研究（その2）アンケート調査からみた組織化の条件，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），pp289-290.1988.